

## (特非) 持続可能な社会をつくる元気ネット

特別助成

1年目

知識の提供・普及啓発

# 東京2020のレガシー「持続可能な未来」をめざす 「運営計画への連携プラン提案」作成と 具体化に向けた 「みんなで創る連携のプラットフォーム」の育成

連携団体数

27団体

連携学習会・  
セミナーの開催

156人

活動の全体目標に  
対する達成度

90%



大会における2R（食品ロス）をテーマに

### 課題

2020オリパラにおける施設整備や都市作りに加え、資料・食料調達、資源活用・廃棄物管理など、多様な視点による意見交換を通じて新たな社会経済システムの提案を行う。

### 目標

2020オリパラが環境に配慮した大会になり、それ以降にレガシーとして継続できるいくつかの社会システムを残せるような様々なステークホルダーで考え、知恵を出し合い、開催までの連携のプラットフォームをつくる。

### 活動内容

世界的な課題解決への重要な道筋である“資源効率性を高めて心豊かに暮らす持続可能な循環型社会”に向け、残すべきレガシーは何かを明確にし、多様な主体の連携で東京2020「運営計画への連携プラン提案」を作成して、競技大会組織委員会に提出する。そのためのマルチステークホルダー形式による会合を4回と連携・協働の学習会、一般向けセミナーを毎回組織委員会持続可能性部をオブザーバーに迎えて実施した。



2チームの提案が  
メダルプロジェクトに結実

### 達成できなかったこと

3月の会合は、日程調整後、広い会場の確保が難航したため、15団体に声をかけられなかった。

### 今後の展望

オリパラ組織委員会の持続可能性部や東京都、環境省と情報共有しながら、具体的な提案を実現していきたい。

## 成果と工夫した ポイント



### 成果

リサイクル金属によるメダル作成について、2チームによる具体的な提案を6月の会合で取り上げ、取材依頼等が増え社会の関心の醸成になった。組織委員会は11月にリサイクルメダル作成の実施を発表し、2チームの提案も採用に寄与した。

### 工夫

毎回のテーマに沿った出席者に、これまでの人的ネットワークを生かして依頼し、参加を得ることができた。